

令和8年度
(2026年度)

市立ひらかた病院の取り組み

<部長の方針・考え方>

本院は「心のかような医療を行い、信頼される病院」を基本理念に掲げ、患者の皆さんや地域の皆さんとの信頼関係を築き、安心と満足を得られる質の高い医療を提供することで地域に貢献するよう努めています。

現在、人員不足から休棟している6階西病棟を可能な限り早期に開棟させ、地域における基幹的な公的医療機関として、地域医療の確保や健康の維持・増進を図るとともに、公立病院の役割である民間病院では対応が難しい政策医療の提供に努めます。

また、経営状況の改善の取り組みとして、令和7年度に見直しを行った「市立ひらかた病院 経営強化プラン（第3次中期経営計画）」に掲げる取組を着実に進めるとともに、経営に関する様々な課題を解決する特別チーム「経営戦略タスクフォース」を中心に、本院の経営改善に全力で取り組みます。

令和8年度は、新たな病院事業管理者をはじめとする新体制のもと、全ての病棟を開棟させ、医療機能を一層充実させることで経営の健全化を図りつつ、将来の医療需要を見据え、今後の病院運営の在り方を検討します。

<部の構成>

- ・診療局、看護局、薬剤部
医療安全管理室、
医療相談・連携室
- ・事務局
総務課
経営企画課
医事課

<主な担当事務>

- (1) 患者の診療及び看護に関すること。
- (2) 薬品の検査、出納及び保管に関すること。
- (3) 病院の安全管理に関すること。
- (4) 医療相談及び地域連携に関すること。
- (5) 文書、人事、サービス、病院施設の管理に関すること。
- (6) 病院の経営、財務、契約に関すること。
- (7) 診療費請求等の医事業務及び電子計算組織の管理運営に関すること。

重点的な取り組み：手術件数の増加

昨年度に見直しを行った「経営強化プラン（見直し版）」に基づき、実効性のある収益増加の取り組みの1つとして、手術室運営委員会での検討に加え、令和7年度に立ち上げた副院長をリーダーとする「手術室効率化タスクフォース」において効率的な運用を行うとともに、手術件数の増加や高度な手術を増加させることで収益の向上を図ります。

取り組みの成果を測る指標	令和8年度目標値	令和7年度実績（参考）
1月当たりの手術件数	350件/月	332件/月

重点的な取り組み：救急医療の受け入れ

救急患者の受け入れは、公立病院として政策医療を提供する本院にとって1つの柱であり、地域の安全を守る急性期病院として24時間365日救急患者を受け入れ、適切な治療を実施することが必要不可欠であることから、適切なベッドコントロールや枚方寝屋川消防組合をはじめとする各機関との積極的な情報交換などにより、依頼件数及び応需件数の向上を図ります。

取り組みの成果を測る指標	令和8年度目標値	令和7年度実績（参考）
救急応需率及び入院率	救急応需率 90% 入院率 40%	救急応需率 91.4% 入院率 39.0%

重点的な取り組み：地域連携のさらなる推進

【施策シート：08-01】

本院は、かかりつけ医等への支援を通じて地域医療の確保を図る“地域医療支援病院”として、地域の中心的役割を担うべく取り組んできました。

令和8年度においても、紹介率及び逆紹介率の向上を図るため、地域の医療機関からの患者の受入れを積極的に行うとともに、紹介のあった医療機関への返書等を徹底します。

また、医療機関への訪問や地域の医療従事者を対象とした講演会及び研修等を通して、地域の医療機関と顔の見える関係を築くなど、より一層、信頼関係を高めることで地域での役割を果たし、地域完結型医療の推進に取り組めます。

さらに、急性期病院として地域医療を支えていくため、長期入院患者の転院先となる地域の回復期や慢性期の病院など、後方支援病院の確保や連携強化の取り組みについても着実に進めます。

取り組みの成果を測る指標	令和8年度目標値	令和7年度実績（参考）
・紹介率	80%	72.9%
・逆紹介率	90%	85.8%

重点的な取り組み：施設基準の届出や加算・指導料の算定率向上

現在、人員配置などの課題により取得できていない加算について、引き続き取得に向けて取り組むとともに、大幅な変更が予想される令和8年度の診療報酬改定では内容を十分に精査・検討の上、最大限の加算・管理料を算定できるよう努めます。

また、専門的な知識を有する第三者による勉強会の開催や、専門の資格取得への支援といった人材育成など、職員全体のレベルアップを図ります。

重点的な取り組み：徹底したコスト削減に向けた取り組み

経営改善には収益の増加だけでなく、コスト削減も非常に重要となることから、医療材料費や医療用薬品費の抑制のため、全国の医療機関の購入価格の照会・比較ができるベンチマークシステムを活用するなどの手法を用いて費用を抑制するとともに、高額な費用を要する医療機器等の整備等については、現行機器の継続利用を前提とするなど、更なる歳出抑制に努めます。

また、昨今の人件費の急激な増加が現在の厳しい経営状況の大きな要因となっていることから、人員の適正化を図りつつ、最大の効果が発揮できる体制を構築します。

重点的な取り組み：情報・魅力の積極的な発信

北河内医療圏における唯一の公立の総合病院としての役割をはじめ、地域医療支援病院やがん診療拠点病院としての機能に加え、専門性を追求する医療提供体制の充実など、本院の「強み」を広く発信するため、病院ホームページや医療機関向け情報誌「かわせみ」を活用するとともに、市民の皆さんに健康や病気の予防・治療等により関心を持ってもらうため、医師や専門職による「市民公開講座」を定期的を開催します。また、病院における様々な情報を、インスタグラムなどのSNSも活用し、医療機能だけでなく多様な視点から本院の魅力を広く発信することで、地域から信頼され、選ばれる病院を目指します。

重点的な取り組み：誇りとやりがいを持って働く職場環境の醸成と働き方改革の推進

職員の働き方改革に向けた取り組みとして、「医療従事者等の負担の軽減及び処遇改善に資する計画」に基づき、医師事務作業補助者や看護補助者の配置、また様々な職種における役割分担など、引き続き、本院の職員が働きやすい職場となるよう、環境の充実に図ります。

また、職種ごとのスキルアップが図られるよう各種研修を充実させるとともに、本院で働くすべての職員が誇りとやりがいを持って働き続けられるよう、メンタルヘルス研修やハラスメント防止研修等を実施し、誰もが働きやすい職場風土の醸成を図ります。